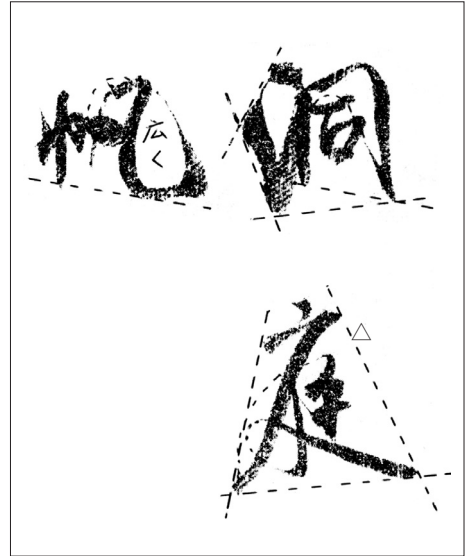


◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

蜀素帖 米芾



1、字句 洞庭帆

2、形式 半紙タテ使用。右に「洞庭」、左に「帆」と二行に臨書し、余白に落款「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。

3、概観 宋代の四大家の中でも、米芾は在世中より「米顛」(この場合の顛とは「正常ではない」との意)と呼ばれるほどの奇行の持ち主であったという。また、米芾は收藏家としても知られたが次の話がある。

「蔡攸と舟中で王衍の字を観ていたとき、突然、軸を捲いて懐に入れ、水中に身を投げようとした。蔡攸が驚いて問うと、自分が平生蔵しているものの中に、このように立派なものはない。これを抱いて死ぬほうがましだというので、仕方なく米芾にこれを贈った。」

4、各字のポイント

洞 米芾のサンズイは多岐にわたる。このサンズイは筆を強く突き押しとおす。それに比べて傍は軽いタッチで、二画目転折で筆を引き上げハネも軽い。

庭 二画目転折から左払いへの筆致強く、三画目に意連。「壬」も弾力をつかい、「爻」は軽く終画は長めに。文字稍左傾。

帆 鋒先より入筆後筆を強く突き、二画目三画目に連綿。旁一画目異常と思える程の細線。二画目強く起筆し、転折後内へ反る。ハネも大きい。三画目の点も重く。

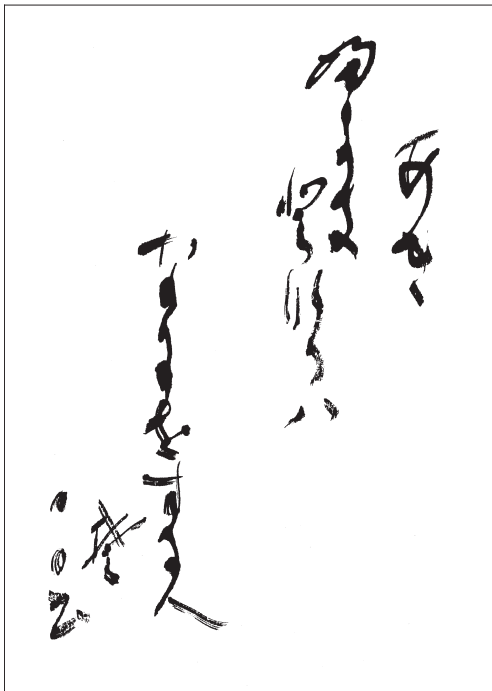
半紙課題(予告) (十月二十二日締切)

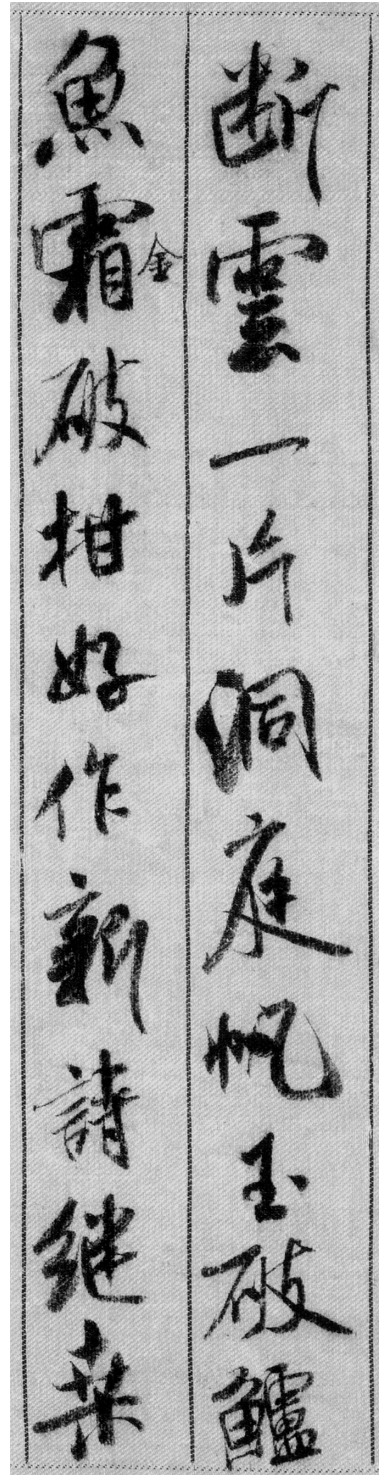


平岡華雪先生書 秋聲天地の間(陸游)

訳：秋の聲は天地間にみちみちて萬物にそのきざしが見られる。

平岡華雪先生書 秋深きとなりは何をする人ぞ(芭蕉)





断雲一片洞庭帆 玉破鱸魚金破柑 好作新詩繼桑 (芋)
断雲一片洞庭の帆 玉は鱸魚を破り金は柑を破る 好し新詩を作りて桑芋に継ぎ
洞庭湖に浮ぶ白い帆のようなちぎれ雲、鱸魚の刺身は玉を割いたよう、柑は金を割ったような美しさ。さあ新しい詩を作って機織りの仕事を続けよう、

※随意部参考(半紙・条幅)としてもご活用下さい。抜粋可。
随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

一字書 (九月二十二日締切)

課題

蘇

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ・ヨコ自由
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入

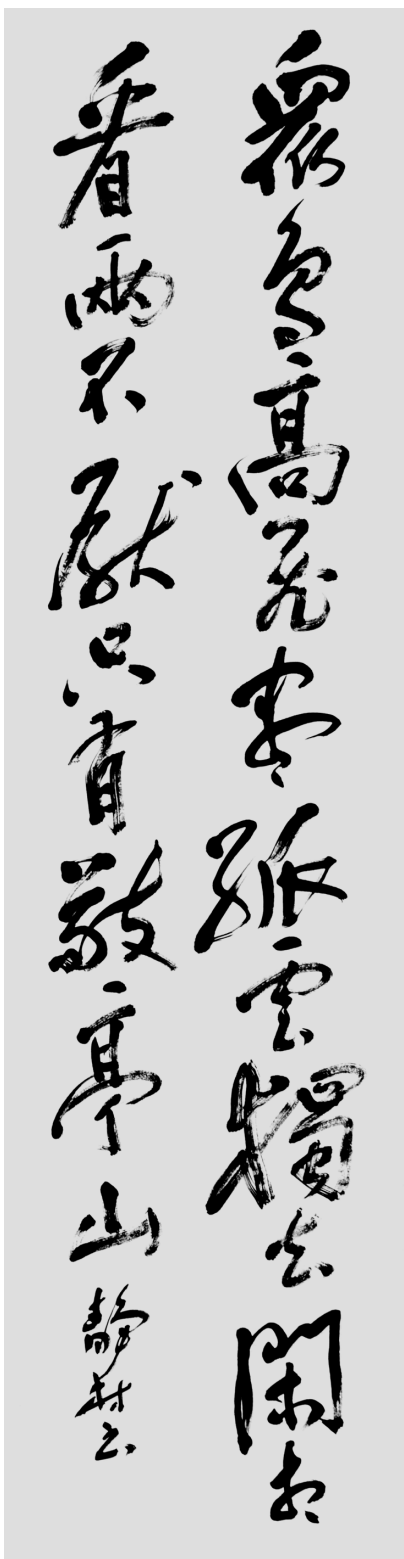
A
高橋香樹会長書

衆鳥高飛盡 孤雲獨去閑 相看兩不厭 只有敬亭山 (李白)
衆鳥高く飛んで尽き、孤雲独り去って閑かなり。相見て両つながら厭かざるは、只だ敬亭山有るのみ。



B
鈴木静村先生書

五言絶句二十字。最初は行草半々のつもりで書き始めたが、草書が減りこのようになりました。二十字だと文字が小さくなり、横への動きが足りなくなり。そこで、一行目は「飛・盡・雲」で、二行目では「厭・敬・亭」で横幅をとり、左右の行の呼応にも留意しました。墨継ぎは「去」と「只」。



大小の変化への切り込みを——表出上、大小が打ち出し易いので、この点を意識し書いたものです。ただ、「去、相」の表出は、あまりにも大小が際立ち、却って不調和気味、みなさんの工夫を期待しています。特に初歩段階者は大小の変化に乏しく、同大文字の連続傾向が見られるので、大小への思い切った表出・工夫の一助になればと思っています。墨継ぎ、左右が並立しないよう、バランスに留意のこと。
訳：鳥たちは高く飛んでいなくなってしまう、離れ雲も独り去って後は閑かになった。互いに向かいあって見厭かぬは、敬亭山があるばかり。

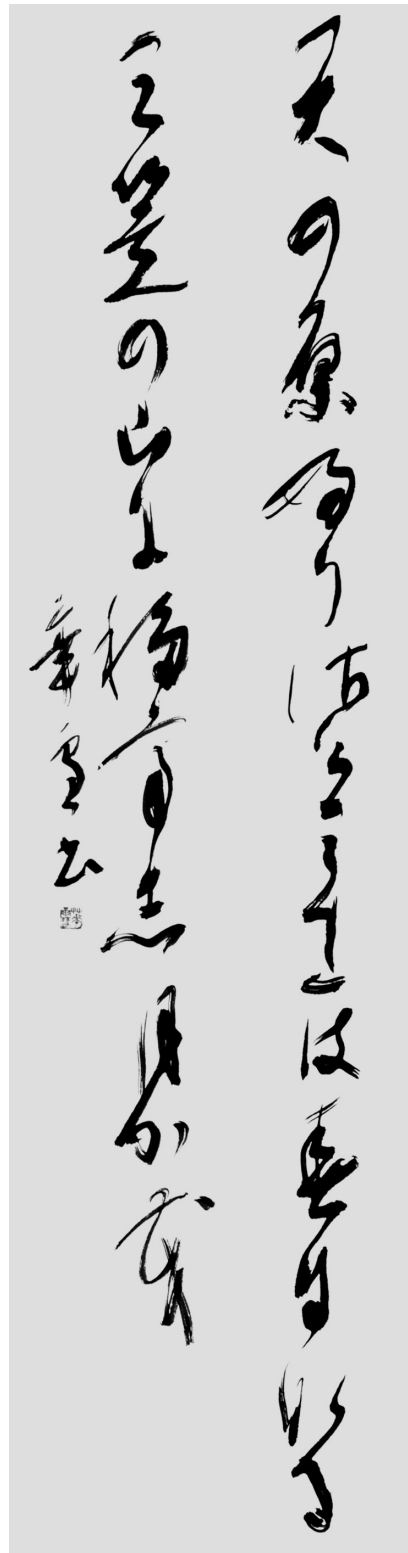
予告 (十月二十二日締切) 不是習家池上飲 傍人休笑醉如泥 (張元禎・明)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

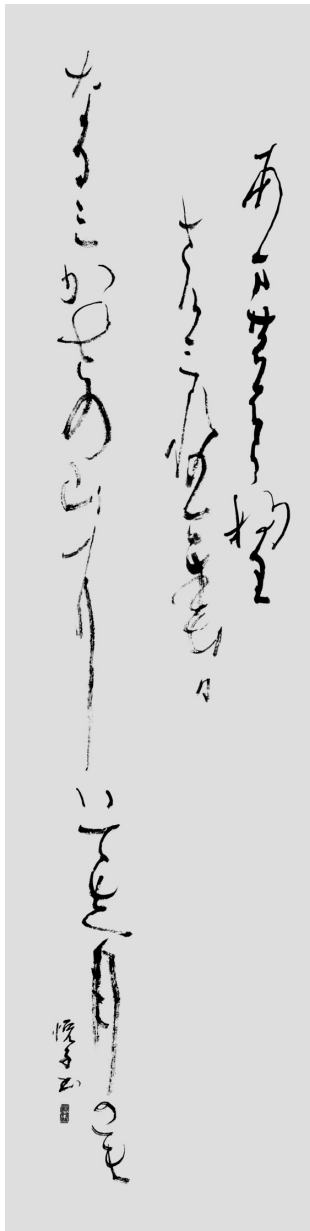
天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも (安倍仲麿)
 天の原婦り佐介三連は春日那る三笠の山尔移亭志月か茂



B

長野悦子先生書

あ万農者ら婦里さ介三れ盤春日なる三かさの山耳いて志月可毛



学び方

半切三行書です。一行目に墨を入れ二行目の下方「春日」のあたりから渴筆に。三行目の中程より終筆まで墨を入れる。行の長短変化・筆線の潤濁・濃淡など配慮しながら仕上げて下さい。

学び方

歌意：天を仰いではるか遠く眺めれば、月が昇っている。異国にあって月を眺め、かつて見た故国の月を偲んだ望郷の歌である。

安倍仲麿 (六九八—七七〇)

十九才の頃、遣唐使として中国の唐へ渡った留学生の一人。時の玄宗皇帝に気に入られ、中国名(朝衡、ちようこう)として五〇年以上仕えた。一度帰国を許されたが、途中で船が難破して引き返し、結局帰れぬまま唐の地で没す。

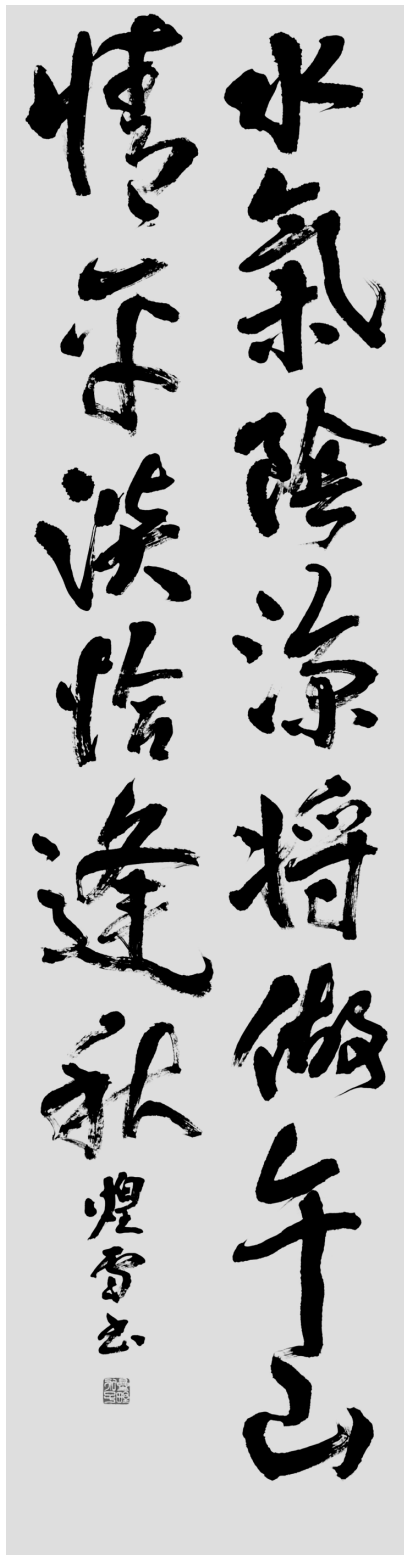
予告 (十月二十二日締切)

たはやすく雲のあつまる秋ぞらをみなみに渡る群鳥のこゑ (半田良平)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

星野煌雪先生書

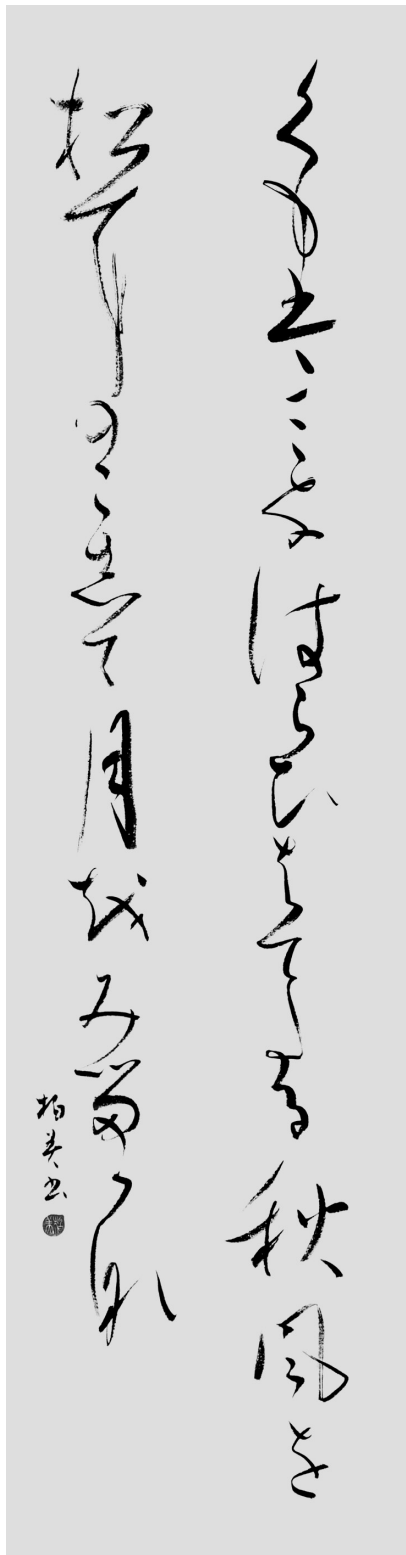
水氣陰涼將做午 山情平淡恰逢秋（呉蔚光）
 水氣陰涼將に午を做さんとし、山情平淡恰も秋に逢う。



訳：水氣は涼しくして十二時に近く、山のけしきはあつさりとちようど秋になった。※做は、作の俗字。

石島柏美先生書

雲はみなはらひはてたる秋風を松にのこして月をみるかな（新古今和歌集）
 久も盤三奈はらひ者て多る秋風を松耳のこ志て月越み留可那 撰政太政大臣

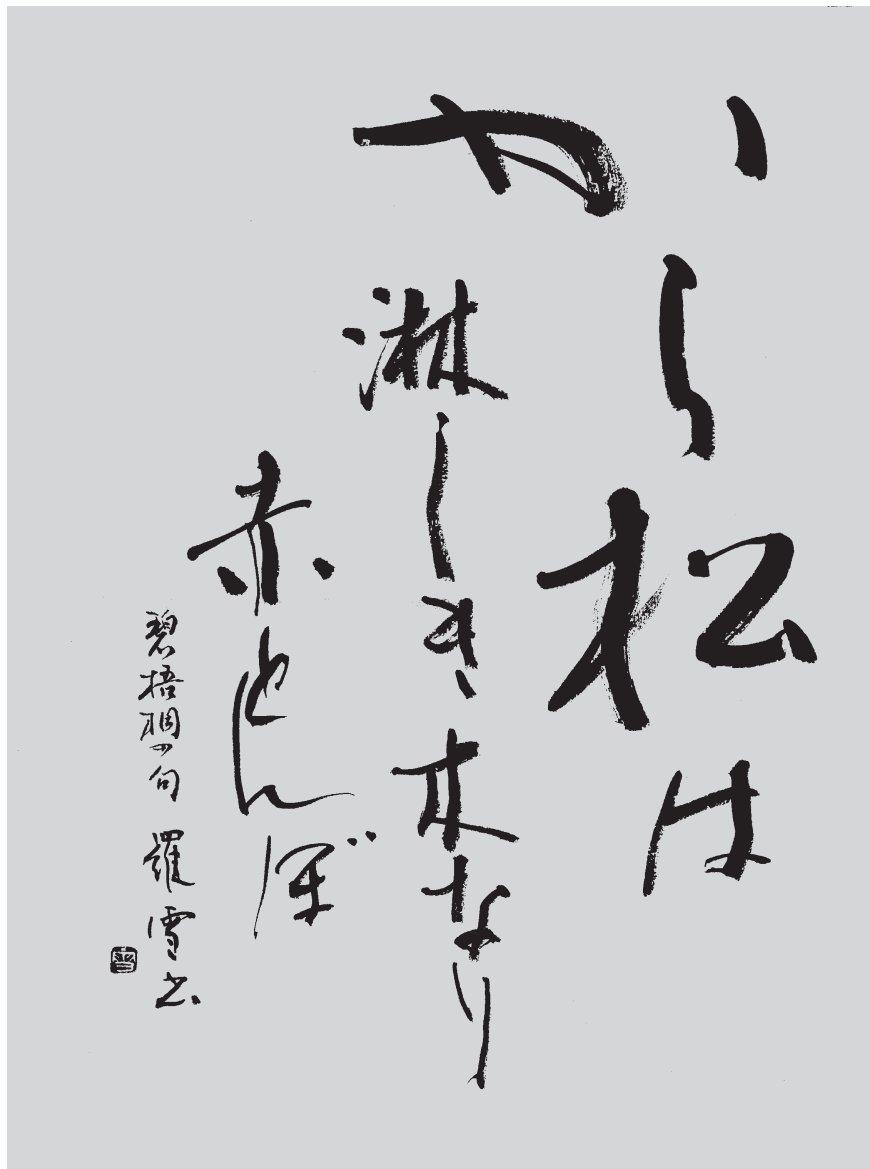


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

杉浦羅雪先生書

から松は淋しき
木なり赤蜻蛉
河東碧梧桐

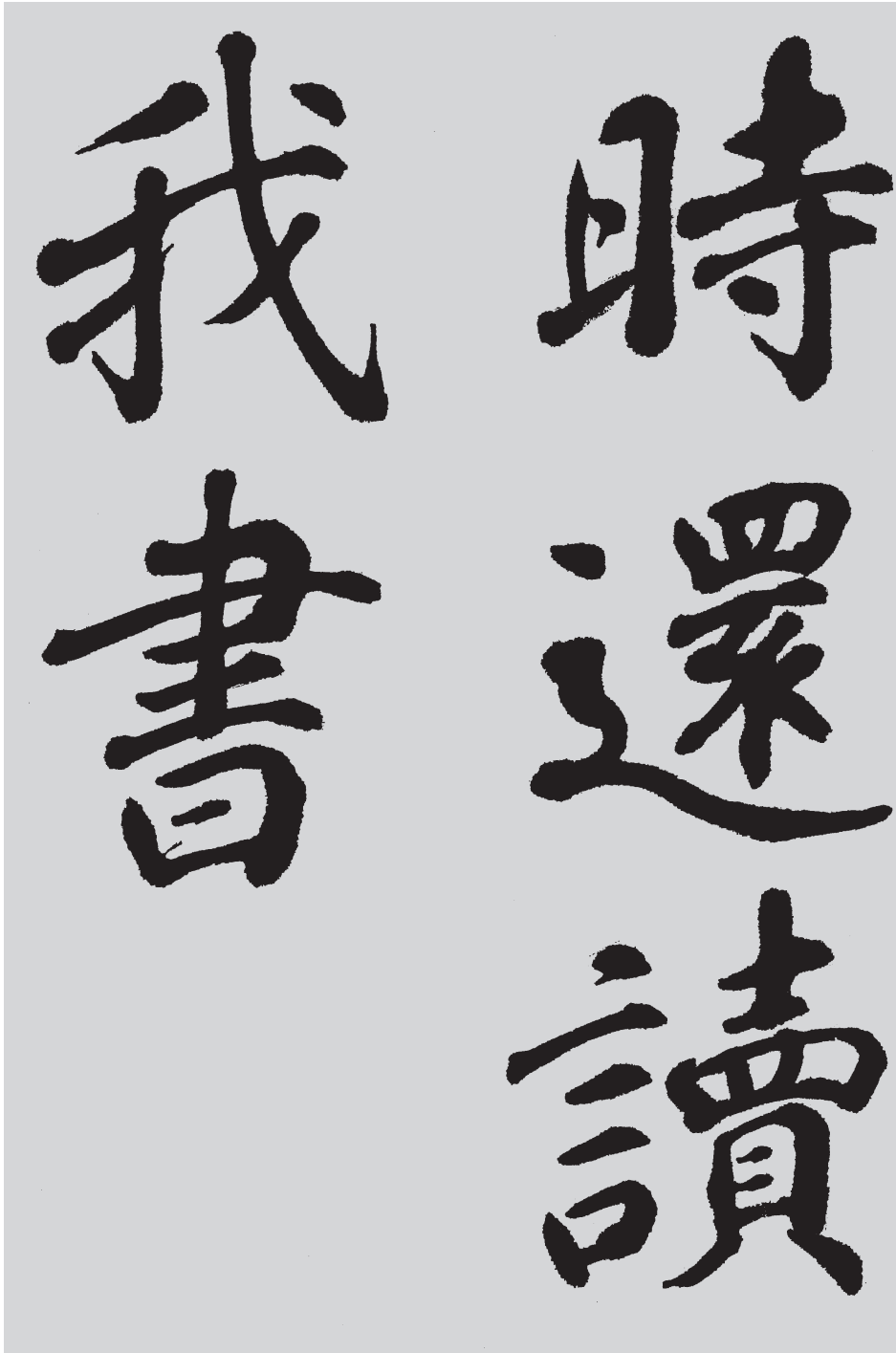
漢字を少なく、表現のむずかしいかなを使って大きさを配置、線の太い細いを組み合わせ自由に表現してみても下さい。散らし方なども工夫して各自の創作を書いてみましょう。
秋の日に、すでに落葉しつつあるから松の寂しさに群れ飛ぶ明るくもはかない赤とんぼとの相乗した表現が出来ますように。



河東碧梧桐（かわひがしへきごとう）
俳人 一八七三〜一九三七年 愛知県生まれ
本名 乗五郎 昭和一二年歿 65才
正岡子規に師事。子規没後、定型・季語を離れた新傾向俳句を展開し、ヒューマニズム色のある個性的な自由律を生み出した。
※北原白秋の詩「からまつはさびしかりけり」は、後の大正十年十月に作られた。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

時に還た我が書を読む。(多紀元堅)
多紀元堅の著書

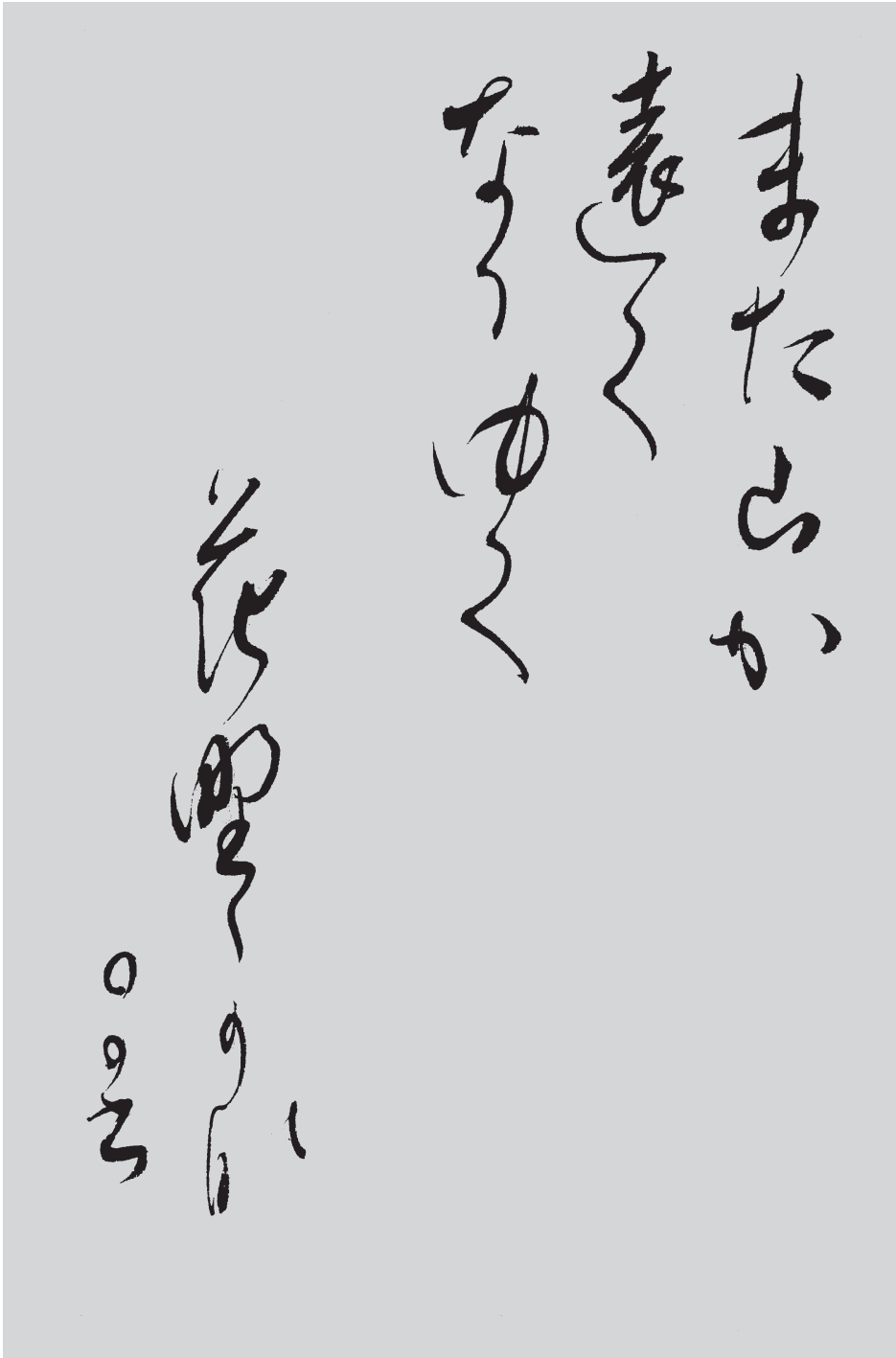
〈横画に生氣を—〉
横画の多い課題です。このような場合は横画の書き方が主調となります。鋒先を利かせ、筆勢を加え、直線的に運筆すると、すっきりした線が書けます。弛んだ、筆勢のない横画は見苦しいものです。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

また山が遠くなりゆく花野かな (桜坡子)
また山か遠くなりゆく花野かな



〈書き込みを重ね、線を鍛え〉

右群、三行の散らしは、全部二字連綿の基本形。今までに何回か書き込んできているので、総集として取り組んで下さい。連綿線に弛みがないこと、迷いがいいこと。特に初歩段階者は自分のリズムを見つけて下さい。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

川上香蓉先生書

夢破五夜鐘（良寛）
夢は破る五夜の鐘

夢破五夜鐘
夢破五夜鐘
夢破五夜鐘

香蓉書

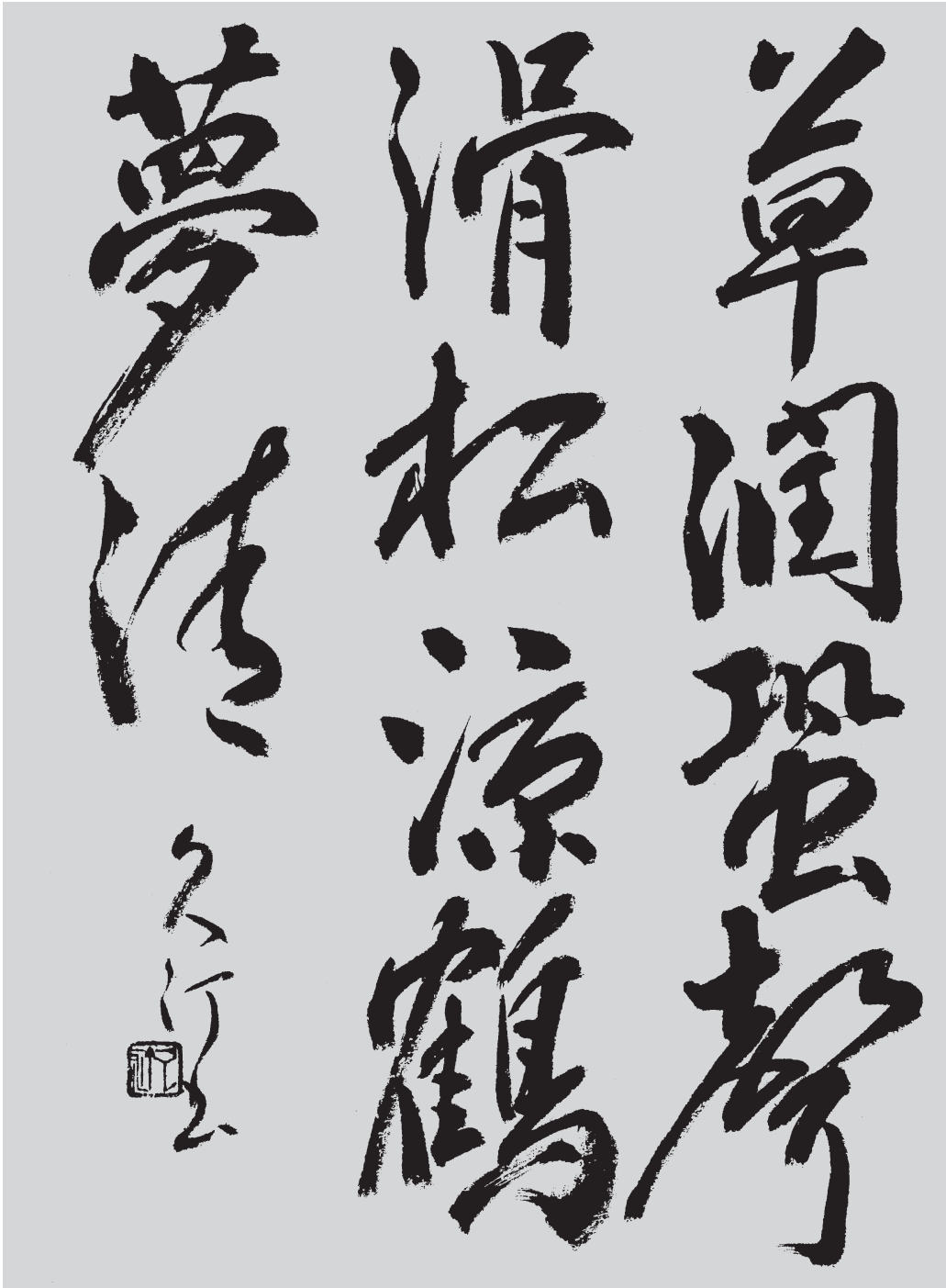

訳：その時、五更鐘が響き、夢から覚めた。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

笹崎久汀先生書

草潤蛩聲滑、松涼鶴夢清（戴昞）
草潤い蛩聲滑、松涼しく鶴夢清し。

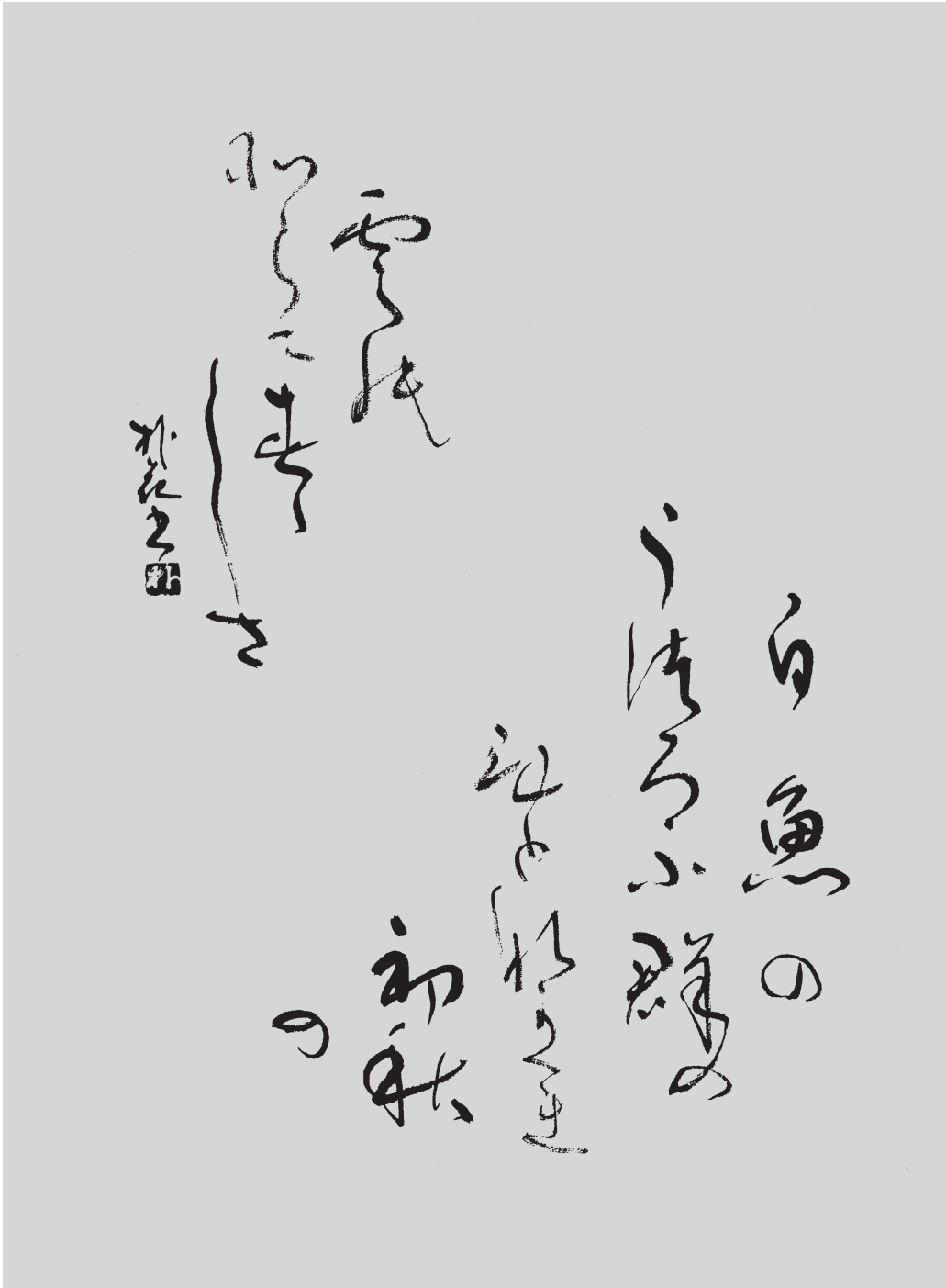


訳：草は夜の露にしめってこおろぎの鳴く声も滑らかに聞え、松の色の涼しげに鶴の夢も清く思われる。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

向
山
朴
花
先
生
書

白魚しらうをの移うつろふ群むれのひとながれ初秋はつあきの雲くもの空そらにすずしさ（北原白秋）
白魚しらうをのう徒つろふ群むれの飛ひと那可な可か連れ初秋はつあきの雲くも能の所のら二春にすず々すずしさ



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

昏い杉並木を横に見て、がらんとした
日光の駅に降りたつと、東京にはなかつた
冷気が肌に沁みてきた。

二つに裂けて傾く盤梯山の裏山は
陰しく八月の頭上の空に目をみはり
裾野とほく靡いて波うち
芒ぼうぼうと人をうづめる

課題1 (初段階以上)

二つに裂けて傾く盤梯山の裏山は
陰しく八月の頭上の空に目をみはり
裾野とほく靡いて波うち
芒ぼうぼうと人をうづめる

「山麓の二人」の一節 高村光太郎

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円
- (6) 昇試規定は裏表紙を参照の事。

課題2 (初段階以下)

昏い杉並木を横に見て、がらんとした日光の駅に降りたつと、東京にはなかつた冷気が肌に沁みてきた。

「夏の終り」 瀬戸内寂聴